

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年4月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676000088
法人名	医療法人 財団 浩誠会
事業所名	グループホームゆめ
所在地	鹿児島県霧島市霧島田口2 1 4 3 番地 (電話) 0995-57-2077
自己評価作成日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、風光明媚な霧島の地にあり、北には高千穂の峰が聳え立ち、南には桜島が眼下にあり、雄大な景色を満喫できる。また、霧島神宮のお膝元に位置し、正月には初詣にも出かけている。併設の霧島杉安病院との医療連携も充実しており、内服薬や心身の状況をこまめに主治医・Nsに報告し連携を図ることで、異状の早期発見に努めている。また、リハビリにも積極的に参加し、筋力の維持・増強や認知症の進行予防だけではなく、より長く、快適にホームで過ごしていただけるよう支援をしている。明るく開放的な建物と豊富な温泉のもと、専門スタッフとゆっくりと安心した生活が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、霧島神宮にほど近い周囲は静かでゆったりとした田園風景が広がり、北方には高千穂の峰はじめ霧島連山が、遠方には桜島が見渡せる風光明媚で豊かな自然に包まれている。広大な敷地に、法人母体の医療機関や老健施設、デイケア、訪問看護、ヘルパーステーション等と隣接して設置されており、これら機関との協力、連携の体制は十分構築されている。法人が実施する夏祭りや季節の行事、毎月開催の「地域のひろば」の開催は地域住民との交流を図り、また職員研修も法人全体で計画的に実施されている。医療や福祉の各サービスが充実しており、利用者及び家族の安心と信頼に繋がっている。

○管理者や職員は、利用者の思いや意向、また日々の変化等の把握に努め、家族とも連携して可能なことは速やかに日々のサービスに反映させて、利用者本位のより良い支援に取り組む姿勢がうかがえる。

○管理者は、職員の意見や要望、提案を業務の改善やサービスの質の向上に繋げるために、日頃から何でも言える雰囲気作りに努めるとともに、必要な対応は職員と十分に連携して改善している。ケアに関する意見に対しては、管理者自身がその場面で試行や実践を繰り返して意見の内容を的確に把握して対応している。また、ホーム内外の研修の充実をはかり、職員のスキルアップや質の向上に積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念である「その人らしく生きる」ことを支援し地域住民とともに医療、保健、福祉活動を通じ利用者が共同生活を送る上で、自らの役割をもつことにより、達成感や満足感を得、自らの生活の場であると実感できるよう必要な援助を行う。	ホーム独自の理念に加え全員で作成したケアの目標を掲げて、利用者が地域や家族とのつながりを大切にしながら、「その人らしく生きる」ことが出来るように日々支援に努めている。理念は事務所に掲示しており、毎日の申し送りや月1回の職員会議やスタッフ会議を通じて研修や振り返りを通して理念の認識を深め、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小・中学校の生徒さん達の来訪、小学校運動会への参加、買い物にの同行、近隣の高校生の介護ボランティア活動 又、毎年来訪して入居の方とのふれあいをもってもらうなどしている。中学校の体験学習で来訪し、高校に進学して再度来訪してくれる人もいるなど、交流が図られている	小学校の運動会に参加したり、日常的な散歩や買い物時に地域の人と挨拶や会話を交わしている。法人全体で実施の「夏祭り」「地域のひろば」、またホームの「敬老会」や「クリスマス会」等には家族や地域の人に参加して頂いている。家族や友人、知人の来訪も多く、その他踊りやゴッタン、ハーモニカ、三味線のボランティアや中学生の体験学習も積極的に受け入れており、利用者はこれらの人々との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	市、主催の認知症家族介護交流会へ参加、高齢者の方と暮らす中での悩み、その中で認知症の方を介護されているご家族の方への支援・助言など行っている。キャラバンメイトを取得したスタッフによる認知症サポーター養成講座を小学校や地域の公民館で行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム活動内容・取り組み・問題点を報告し活発な意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	会議は家族や地域住民、民生委員、行政、消防署、駐在所の参加を得て定期的で開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果等の報告がなされると共に、委員からは地域の高齢者に関する情報や交通事故の報告及び注意事項、防災に関する事等の意見が活発に出されて情報交換の場になっている。それらの内容は議事録で職員にも周知が図られており、具体的に家族や地域との交流及び日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村とは、適切な運営を行うために市担当者を訪ねて相談したり、電話で意見交換したりし、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>市担当者には運営推進会議に出席して頂くとともに、日頃から訪問や電話で、施設の運営やケアに関する相談や意見交換を行い、また諸手続き等の助言・指導を頂くなど協力関係が築かれている。市が開催する会議や研修会にも積極的に出席しており、これらはサービス向上に反映させている。</p>	
5		<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」とあり、職員も周知徹底して如何なる拘束も行わないことが申し合わせてある。又、法人内の身体拘束廃止委員会に出席している。</p>	<p>日中は居室や玄関の施錠は行わず、職員は安全に十分配慮して見守りを徹底し、利用者の安全で自由な暮らしの支援に努めている。外出したがる利用者には、寄り添って対話や散歩で気持ちの安定を図るようにしている。また、言葉による拘束を含めた身体拘束については、マニュアルも整備しており、法人全体の研修やホームの職員会議、申し送り時に振り返りを繰り返して理解を深め、日々のケアの中でも常に意識して支援に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては新聞、テレビなどでの報道を知らせ、虐待防止のために職員と話し合いを行っている。又、言葉に対する虐待、職員のストレスから起こりえる虐待、管理者・主任が気をつけている。又、職員同士の助け合いで虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の利用が必要な事例はないが、青年後見制度や権利擁護についての研修会などに参加し、職員へ勉強会を通して理解の周知を図りたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は、十分な説明を行い同意を得た上で署名捺印をいただき、本人・家族に関する契約書（重要事項説明書）を配布している。又、解約する際も、契約者との十分な話し合いを行い退去後に関しても安心していただけるような説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置し、苦情相談窓口案内も目に留まりやすい場所に掲示しており、日々の生活においても利用者の方が相談。苦情の言える雰囲気作りに心がけている。相談苦情があった場合は、申し送りノートに記載し、速やかに早期解決が図られるように取り組んでいる。入居される際、契約書の説明時に相談・苦情がある場合は、些細なことで相談していただけるよう声かけており、相談苦情があった場合は運営者・管理者に報告がされ、改善できるところは速やかに対応し、処置への内容などを家族に連絡している。	利用者の思いや意見は、日頃の声かけや所作の見守り等で把握に努めるとともに、ご家族とは来訪時の対話や電話等で、話しやすい雰囲気作りに配慮して気軽に意見や要望を頂くようにしている。それらは申し送りノートや介護支援記録簿で共有し、十分に話し合いを行って改善に努めており、結果は速やかに本人や家族にも報告して日々のケアに反映させている。苦情相談窓口設置のポスターの掲示や意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議において、運営者・管理者も出席しており、話し合いの中で職員から出された意見・提案などを反映できるように努めている。	職員の意見や要望等は、毎月の「職員会議」や「スタッフ会議」のほか、日常のケアや申し送り時等に、また内容によっては職員個々に合わせた声かけも行う等、話しやすい雰囲気作りに努めて把握し、管理者はこれらを業務改善や利用者へのサービス向上に反映できるように取り組んでいる。特にケアに関することは、職員の意見を十分に聞き取り自らも試行や実践を行って実状の理解に努め、改善については全員で検討して、質や意欲の向上に繋がるように努めている。資格取得や研修参加の希望に対しては、積極的にバックアップしており職員のスキルアップに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>頻回にホームを訪れ、勤務の状況・各自の業務を把握し、声かけなど行い意欲的になるよう働きかけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修参加を推進しており、グループホーム協議会の研修も積極的に参加させており、研修報告提出も義務づけている。又、資格を取ることも勧め、勉強会も開くなど職員育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡協議会において、各種研修会や講演会などに参加し、相互の情報交換など行ったりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、見学を事前にしてもらったり、管理者・計画作成担当者が本人の不安や悩みを聞き入れ、現在の状況・状態の把握に努め、安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者本人同様、家族に対しても施設見学などして頂き、又、電話相談・インテークの際もあらゆる場面を想定し対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人の心身の状態をしっかりと確認し何を必要としているか見極め家族からも生活歴などを聴き、ホームで対応できない支援については他の必要なサービス機関の紹介をするなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることまで手を差し伸べず、出来ること的能力を十分に引き出してあげ、喜び・悲しみを共有し、ともに支えあい生活していただいている。又、本人が好きであった歌や短歌、得意なお菓子の作り方昔の食べ物など教えていただいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会に家族を招いて食事・レクリエーション（カラオケ）をしたり、1日を職員・家族・入居者全員で一緒に祝い時間を共有し、支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の要望に応じ、馴染みの場所に出向き尋ねたり、ご家族に思いを伝えたりし関係が途切れないように支援しているが、現状を継続していくことが少しずつ困難になりつつある。	利用前に本人や家族、関係機関から、生活歴や病歴、家庭環境、地域の人との交流状況、趣味、嗜好の聞き取りを行い、各利用者の状況をアセスメントシートに記載して情報を共有している。本人の希望に沿って行事への参加や外出、馴染みの人や場との関係継続を家族と連携して支援している。遠方に居住している家族とは電話や手紙の取り次ぎにより関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の性格、行動など把握し、気の合う同士テーブルの席を配慮し、トラブルにならないようしている。難聴の方に対しては職員が常に声かけすることで孤立しないよう交わりが保てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される方のほとんどが病院であり、加療中に面会に行ったり、ご家族をお見受けした際は声かけし近況を尋ねたりし継続的な関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、本人・家族に生活暦を訊ねたり、個々に望まれる暮らしをケアプランに取り上げ、その情報を職員が共有し、望まれる暮らしが出来るよう支援している。	本人やご家族からの聞き取りや日頃のケアの中で、思いや希望をくみ取るように努めている。把握した内容は「申し送りノート」や「介護支援記録票」に記録して管理者と職員は情報を共有し、「職員会議」や「スタッフ会議」、「申し送り」で対応を話し合い、ご家族とも相談しながら、本人本位により良い支援となるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦の中から、過ごされてきた環境・経緯を把握し、共同生活の中で望まれる生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の生活の状態を些細なことでも記録に残し、心身の状態の変化を即座につかめるよう情報の共有を図り、本人が活かせる出来る限りの能力を發揮できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意見、関係者からの情報提供よりケアのあり方・方向性など職員全員で分析し、必要なサービス提供や介護計画を作成している。	介護計画は、利用者及びご家族の思いや意見を十分に聞き取り、また主治医や理学・作業・言語療法士、担当職員の意見を基に十分検討して利用者本位のものを作成している。支援の経過は「介護支援記録票」に記入され、3か月ごとにモニタリングを実施して計画の見直しを行って改善に努めている。また、利用者の状態の変化時には実態に即した計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の健康状態や日常生活の様子がわかるように、具体的に記録し、特に変化があった場合などは申し送りノートに記載し情報の伝達漏れがないようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設病院への定期的受診、機能訓練の必要な方へのリハビリなど、本人・家族の方にも安心していただいている。職員が付き添いで歩いて行ける距離の環境である。他科受診は基本的には家族での通院を基本としているが、状況に応じ職員が通院介助を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員の方が運営推進委員会のメンバーに入っており、ボランティアの受入も随時行っている。近隣の小・中・高生が毎年訪れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院で定期的な受診を行い、本人・ご家族の同意を得た利用者に限り年1回誕生日に健康診断を行い健康管理に努めている。</p>	<p>利用者の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、ほとんどが協力医療機関を主治医としている。通院は職員と家族が連携して実施し、受診結果は電話や来訪時の対話で共有を図っており、医師との連携や情報交換も適切に行われている。週1回訪問看護も受けている。また、体調が急変した場合の受診については、事前に家族と話し合いを行い同意を得ているが、可能な限りその都度連絡して家族にも対応してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による看護師により、定期的に日常の健康管理や医療の支援を受けている。利用者に対しての声かけ、ホームスタッフへの聞き取りなど情報の交換など、健康に対しての支援が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は情報提供書を提出し、入院された後も職員が訪ね、医療関係スタッフと情報交換するなど安心して入院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が重度化したり、必要な医療が生じてきた場合は、主治医・家族の希望に添えるように支援する。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に利用者と家族にホームの対応について十分に説明し同意を得ている。重度化した時点で再度家族の希望を確認して、ホームで可能な限り希望に沿った支援ができるよう体制の構築に取り組んでいる。現在2件の看取りの希望を受けており、職員の不安の除去やスキルアップのための研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、協力病院との連携が取れるよう緊急連絡網により迅速に対応出来るようにしている。又、法人の勉強会に参加したり、看護師長による勉強会を定期的にホームで開くなどして、急変対応出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人内の緊急時非常事態連絡網により、日常誘導が行われるようにしている他、年2回消防署立会いの訓練において指導を受けている。スプリンクラーを設置している。</p>	<p>消防署との連携により年2回、夜間を含む火災を想定した避難・消火・通報訓練を実施している。法人が実施する「地域のひろば」に合わせて、ホーム職員による防火に関する講演会を実施したところ多くの家族や地域住民の参加が得られている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や懐中電灯の整備、災害に備えた食料や飲料水等の備蓄も法人全体及びホームで対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言動は、常日頃より運営者・管理者より指導をしておりプライバシーに関わるすべてのことに不適切な対応がないよう努めている。職員に対して個人情報の秘密厳守を指導している。	利用者の人格や尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねないように、利用者個々に合った丁寧な声かけや対応を日々心がけている。マニュアルの整備及び関連する研修も充実しており、各種の個人記録や居室の保護にも十分に配慮がなされている。居室への入室や電話の取り次ぎ、面会人の案内、情報誌への掲載は利用開始時に説明して同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パーソンセンタードケアを心がけ、「その人らしく生きる」を大事に個人の行動を妨げないよう業務優先にならないよう常に声かけを行い、気軽に言える雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、その日の健康状態や変化を把握し、プランに取り入れられている内容を確認し、その方の希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用・美容などは本人・家族の希望に沿った店での利用をして頂き、又、他の店での希望がない場合などは本人・家族の了解のもと職員による散髪が行われている。おしゃれが楽しめるように化粧の手伝い、出かけの際は気にいった服装の着衣などをしてあげたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聴き献立の決定がなされ、食べられないものがあつたりした場合は、その方だけメニューを変えてあげるなどしている。配膳・下膳など自発的にされる環境を作り、会話も交えながら楽しく食事が出来るようにしている。	利用者の好みや栄養のバランス、疾病による摂取制限等に配慮して差し入れの食材も活用しながらリビングに対面した炊事場で調理している。食事が楽しみなものになるように、季節感のある旬の食材の活用や多くの行事食、弁当持参の花見や藤見物、ドライブ、家族との食事会に加えて、切干大根や梅干し、おやつを手作りするなど工夫しており、下ごしらえや下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量を記録し健康状態の把握に努めている。又、体重を2週間に1回量り増減の変化を調べている。内科的に栄養バランスの調整が必要な方は、協力病院より管理栄養士により指導が行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯磨きを行い、出来ない方は支援をし、義歯の方も外して洗浄している。義歯は週1回ポリドントによる洗浄を行っている。咀嚼状態を観察し、必要に応じかかりつけの歯医者、又は協力医院にて治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、さりげなく声かけを行い誘導・介助をしている。排泄・排尿に関しても出来るだけ自立できるように支援している。日中は出来るだけオムツを外してトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表の活用や利用者の様子観察により利用者に合わせた声かけを行い、不安や羞恥心に配慮しながらトイレに誘導する等、自立に向けた支援を行っている。プライバシーや安全確保に配慮しながら、利用者個々の習慣や身体機能に応じた支援になるようにケアプランにも組み込んで改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の確認のほか、午前のお茶時間に牛乳を毎日飲まれており苦手な方にはヨーグルトや繊維質の物を摂取していただいている。又、十分な水分補給を行うようにしている。毎日16時に体操を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望があれば曜日・時間に関係なく入浴可能である。入浴を拒否される場合などは時間を置いて体調をうかがいながらすすめている。温泉であり、語りかけながら個別支援入浴でリラックスしていただいている。	入浴は温泉で対応しており、基本的には週2～3回であるが希望があればいつでも入浴可能である。失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面にも留意しながら、可能な限り好みの時間帯での入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には無理強いしないで、言葉かけや介助者、時間帯の変更を行うなど、気持ち良く入浴して頂けるように工夫している。個浴で、職員と親しく会話できる機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、余暇活動・リハビリ・散歩・テレビ鑑賞などリズムのある生活をしておられ、昼の居間で寝転んだり、フットマッサージ機をかけてリラックスされていたり、昼食後30分から1時間は休息を促したり入居者の体調に合わせた生活支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋が記録台帳に閉じてあり、又、新しい服薬については、全員が確認し用法・用量の誤りが無いようにしている。服薬後も体調変化がないか状態把握に努め、些細なことでも記録するようにしており、変化があった場合は契約看護師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活暦を把握し、身体機能を見極めて出来ることの能力を日常生活で最大限生かせるよう支援している。又、玄関掃除・テーブル拭き・モップ掛けなど役割を持つことで自主的に行われるようになり、張り合いのある生活ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	心身の状態に配慮しながら買い物に出かけたり、ドライブに出かけ近くの足湯に行きゆっくり寛いできたり、夕方散歩に出かけ戸外の空気を吸う事で気分転換が図られるようにしている。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って日常的に散歩や買い物・ドライブ等に出かけて地域の方々と親しく挨拶や会話を交わしたり、菜園の手入れ等を楽しんでいる。また、家族との連携で墓参や地域の行事、一時帰宅、外泊・外出、桜や藤などの季節の花見など可能な限り多くの支援を行い、外出が楽しみとなるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理されて居られる方の他、ホームで管理している方について要望があった場合はお渡し職員と一緒に買い物をするなどお金を持ち生活をするの大切さを職員も感じながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話がかけられるようにしてあり、家族からの電話の取次ぎはもちろん、電話をかけることが出来ない方でも要望があれば気軽に対応するようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に季節に合わせた壁紙を作り掲示してあり、廊下には個々に作られた作品が飾られている。居間・食堂には天窓があり、光の調整を行うなどしている。浴室の脱衣室には木製の長いすが置いてある。	リビングは明るく、余裕ある造りで対面式のキッチンからは調理の音や匂いが伝わってくるなど家庭的である。テーブルやテレビ等の家具が使いやすく配置され畳のスペースも設置されており、利用者は好みの場所でゆっくり穏やかに過ごせるように工夫されている。リビングや廊下、洗面所等には季節の花や利用者の貼り絵や折り紙等の作品が飾られ、不快に感じる音や匂いも無く清潔の維持並びに空調管理にも十分配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・畳の居間はワンフロアになっているもののテーブルで談話したり、居間で新聞読んだり寝転んだり・テレビを見たりと寛いで生活されている。フットマッサージ器をしながら気の合う仲間同士談話したりしてそれぞれ思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、使い慣れたタンスや、昔馴染みの装飾品など持ち込んでいただくよう声掛けしている。本人持込の家具や時計・人形などが置いてあり自分の部屋としての空間を大切にされていたりされるが、見栄を気にされるのか、新しい物を買って揃えられてくる方が多い。	各居室はベッドやエアコン・ロッカーが設置されて利用者の状況によっては、畳を敷くなど工夫されている。ご家族とも話し合いながら、利用者が使い慣れた寝具や写真、時計、人形、小物等を自由に持ち込んで頂き、家庭と同様に本人が落ち着いて過ごせる環境となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の方の心身機能を把握し、本人の持ち物で自分の部屋が確認できるようにしてある他、トイレがわかるよう目印があるなど個々の潜在能力を生かし自立した生活が出来るよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない